

【筑北村】校務DX計画

2025年2月

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	※留意事項
共通項目	FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合	0%	100%				・クラウドツールの未活用やFAXでのやり取り・押印の見直し、不合理な手入力作業の一掃については、校務の効率化・ペーパーレス化の大きな阻害要因になっているものであることに十分留意すること。
	不合理な手入力作業の一掃に取り組んだ学校の割合	50%	100%				
	クラウド環境を活用した校務DXの徹底に取り組んだ学校の割合	0%	50%	100%			
選択項目	3.学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信している学校の割合	100%					・自治体として力を入れたい内容をリストから選択する。 ・選択肢はGIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストの34項目より作成。自己点検の結果等を踏まえつつ、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題を選択する。
	9.1人1台端末を児童生徒に持ち帰らせ、家庭で利用できるようにしている学校の割合	100%					
	16.職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化している学校の割合	100%					
課題と解決策の具体	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題	・ICTに精通した教職員の少なさによるICTへの苦手意識 ・保護者理解					
	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題の解決策	・苦手意識を持った教職員には、ICT支援員やGIGAスクールサポーターによる支援、ICTに精通した教職員知識の共有を実施し、アナログだけでなくデジタルを活用できるよう支援 ・保護者へは、Home&schoolでの情報提供・フォームでのアンケート等依頼を引き続き実施					
	校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討の計画	・校務支援システムやHome&schoolを活用して学校保護者間の連絡手段の形成がなされている。 ・校務については、FAXを使用した文書の収受からメール等ICTを活用。校内職員会等資料閲覧等も校務支援システム(C4th)等ICTを活用して効率化、紙の削減を実現し、教職員の働き方改革を推進する。					